



岩手県立盛岡峰南高等支援学校

～生きがいある豊かな生活の実現～

令和2年度 校内研究テーマ

「主体的・対話的で深い学び」を実現する指導のあり方

～教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成～

(3年次研究の3年目)

1 研究テーマについて

新学習指導要領では、子どもたちが未来社会を切り開くための資質・能力を一層確実に育成するために、「生きる力」をより具体化し、教育課程全体をとおして育成を目指す資質・能力を三つの柱で整理し明確にすることや、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするための「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進すること等が求められている。

本校は、高等部だけの支援学校として、開校以来これまで専門教科やキャリア教育について実践を重ね、生徒の自立と社会参加を目指す教育に努めてきた。1年次研究では、本校に求められる社会的ニーズや生徒のニーズをふまえた本校で育成すべき資質・能力を確認・共有すること、三つの観点を取り入れた単元ごとの評価規準の設定を全ての教科等で進めること、生徒一人ひとりの実態に応じた目標設定と観点別評価の精度をあげるための手だての検討を行い、「主体的・対話的で深い学び」に向けての土台となる部分についての共通理解を深めた。2年次は、昨年度の研究で取り組んだ「育成を目指す資質・能力の共有と学習評価の充実」で作成した各教科の題材(単元)ごとの評価規準表の活用と検証、知識・技能の確実な定着を図るための単元テストやチェックシートの活用等による学習評価のさらなる充実、「本校で育成を目指す資質・能力」の検討中で指摘された生徒の課題と職員の範示に関する分析、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成について取り組んだ。以上のことで、指導と評価の一体化が図られ、より組織的で系統的な学習が行われるようになってきた。

そこで、今年度は、新学習指導要領に沿った目標や指導内容の見直しを進め、これまでの2年間の取り組みを検証し充実を図るとともに、「生徒が課題に気づき、対応する力」を育てる授業実践を行うことで、「主体的・対話的で深い学び」を実現する指導の在り方について考察を深めたい。

2 研究の内容・方法

1. 前年度の研究成果の検証と充実(評価規準表の手直し)
2. 題材(単元)計画の枠組みの検討と思案の作成
3. 新学習指導要領に対応できる学習内容の見直し
4. 「生徒が課題に気づき、対応する力」を育てることに焦点を当てた授業の研究授業及び授業研究会の開催
5. 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて

3 期待される研究の成果

- 「課題に気づき、対応する力」を育てることに焦点を当て、授業改善が図られることで、本校における「主体的・対話的で深い学び」がより具体化され実践される。
- 観点別の目標を盛り込んだ題材の計画及び評価規準を作成することで、指導のポイントが明確になり、系統的な学習が推進される。
- 単元計画・評価規準の検証、授業実践と改善により、生きる力を育む教育課程の具体的なビジョンが共有される。